

「いや阿呆らしい。左様云はれると薩張り往生致しまんね。へエ、手前が番頭の次兵衛で……イヤ
 今日も若旦那にキユツと咽喉締められましてな。コトンと往生安樂。アハハハ、土臺ワヤでおます
 ワ。親旦那のお留守を幸ひ、鳥渡魂膽して、来て頂いた様な譯で……成程若旦那がお迷ひなはるも
 無理はごわへん。失禮乍ら北陽のお方は何處やらに粹な處がおますなア。いえ私し等ア北陽なんて
 性に合やしまへんけど、其内には若旦那のお供して一晝寄せて頂きますワ、其節は何分宜しう。さ
 ア一つお酌致しまよか。え、矢つ張り若旦那のお酌の方が宜しおますか。あ、辛い。薩張りワヤ
 や、アツハツハツハツハハ。」
 番頭たこもち間見まみたいな氣になつてよる。

「さア、皆見せつける様で濟まんけどナ。其變りに遠慮なしに飲んでや。佐助どうや、遣つてるか」
 「ヒツ。遠慮なく……ヒツ。頂戴……仕つて居ります。ヒツ。豪いッ。……アア豪い。年は若い
 若旦那は豪い。人、ヒツ。人間ちウもんは……極道する時はして……錢遣ふ時は遣ふて……ヒツ。
 其變りさてといふ時に極道せなあかん……。わた……私し御當家へ奉公に來た時若旦那、貴方はん
 四歳よっつでやした。ヒツ。……溝跨みちまたげて小便してごやした。それがア。今……今日こんにちイ。綺麗きれいな女をんなはんと
 ゴチャくして、店の者には。ヒツ。酒飲まして……旨い物喰はして……何ぢや色氣づきやがつて

シヨムない。……いや御免……ウツカリ口くちりましたんや、併し貴方ア惡戯わるさ者でやしたで。……ヒ
 ツ。云ふ、云ふ事なんて仲々聴きなはらん……。ムカくしてなア。藏の横へ連れて往て、ヒツ。…
 …ガーンと喰はしたつたんや。ウワーン云ふて泣きやがんね。」
 「オイ、そんな無茶したんかいナ。」

「シヨムない。昔の事やがナ。……オイ藤七とん酌いでんか……私しお宅へ奉公に來た時貴方はん四
 歳でやした。……み、溝跨みちまたげて小便してごやした……それが今日イ。」

「アハハハ。解つたく。」

「何が解つたや。イヤ何が解つたくや。」

「ア、悪い酒やナ。ま良えがナ。まア機嫌よう飲みいな。」

「いや、こら濟んまへん。オイ藤七とん酌いでんか。モツト仰山入れえナ。ヒツ……貴方ア惡戯者で
 やしたで……云ふ事仲々聴けへん……ヒツ。藏……藏の横……ガーンちやつちや。……ウワーンて
 泣きやがんね……状見さまい……昔の事やがな。シヨム無い……オイモツと酌いでんか。……若旦那。
 ヒツ。私しお宅へ奉公に來た時、貴方はん四歳……。」

「あ、五月蠅いナ……。」

「何イ……何が五月蠅いね。……こらッ。」